

図画工作／美術

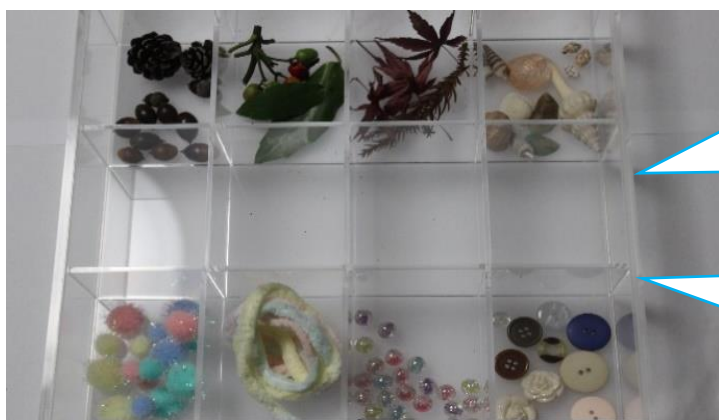
イメージする・想像する

| <困難さ> | <指導の工夫の意図> |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 自分の表現の意図に対し 材料の使い方をイメージすることが難しい | 材料の特徴、形や色の違いに気付き 具体的に想像できるように |

<手立て>

① 材料の特徴や違いに気付くことができるようにする

- ・特徴が分かりやすいものを例示し、材料や用具を用意し、提示する種類や数を絞る



ポイント①!

材料の種類を限定することで、材料を切ったり曲げたりしたときの形や長さ、太さなどに気付きやすくする。直接、材料に触れて、比較することでイメージしやすくなる。

ポイント②!

「○、△、□」などの形、柔らかい、硬いなどの感触等、違いがはっきりと分かるものを準備し、比較することで特徴に気付きやすくなる。

<手立て>

② 材料の加工の仕方を視覚的に示す

- ・使用する材料や用具の用途などを図や写真・動画で示し、その中から選択できるようにする。



ポイント!

全体に示した方がよいものと、一部の児童生徒のみに示した方がよいものを見極め、ヒントコーナーを準備し、必要になった児童生徒がいつでも見られるようにするなどの工夫をする。

イメージする・想像する

| <困難さ> | <指導の工夫の意図> |
|--------------------|--|
| 表現したいことを見つけることが難しい | 材料の特徴や形、色等の違いに気づき表現方法のイメージをもつことができるように |

<手立て>

① 材料に触れ体の感覚を通して実感の伴う活動を設定する

- ・材料を、並べる、つるす、切る、形を変えるなど、材料に直接触れる活動を行う。
- ・絵の具と水と筆など、材料・用具を使って自由に描く活動を取り入れる。



ポイント！

直接、指に絵の具をつけて混ぜたり描いたりするなどの活動を行うことで、発想を広げるきっかけとなる。

見る・観察する

指示を理解する

| <困難さ> | <指導の工夫の意図> |
|--------------------------------|------------------------------|
| 見えにくさから制作の流れや道具の使い方を理解することが難しい | 聴覚情報を活用し、制作の流れや道具の使い方が分かるように |

<手立て>

視覚的な情報を減らし言葉での伝え方を工夫する

- ・使い方を伝えるときには、擬音を使用して身近なものに例えるなど、伝え方を工夫する。



ポイント！

「カッターはカチッ、スーッ」など、擬音を取り入れた伝え方や、「ローラーは行きが車、帰りは飛行機」等と説明すると、動かし方をイメージしやすくなる。

聞く・聞き取る

| <困難さ> | <指導の工夫の意図> |
|------------------------------------|------------------------------|
| 聞こえにくさから制作の流れや道具の使い方の説明を理解することが難しい | 視覚情報を活用し、制作の流れや道具の使い方が分かるように |

<手立て>

- ① 制作の流れや道具の使い方を写真やイラストで示し、いつでも確認できるように掲示する



ポイント①!

下書き、板に写す、糸のこぎりで切り抜く、組み立てる等、制作の流れを写真やイラスト、短文で壁面に掲示する。

ポイント②!

カッターの使い方について教師が模範を示しながら指導した後、そのポイントを写真やイラスト等でまとめたものを掲示する。

ポイント③!

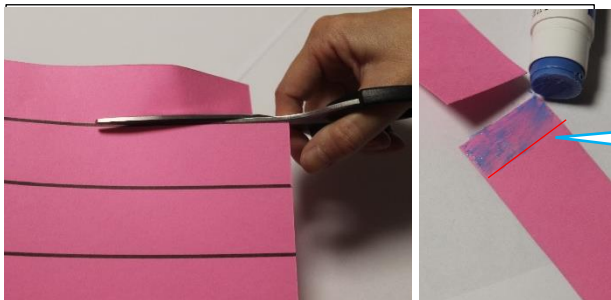
特に安全面に関する内容は常に意識できるように文字等で示す。

道具を操作する

| <困難さ> | <指導の工夫の意図> |
|--------------------|---|
| はさみやのりを適切に扱うことが難しい | 使いやすい道具を使用し、はさみで切ったり糊で貼ったりするところが分かりやすいように |

<手立て>

- 補助線や目印を加えたり、使いやすい道具を準備し活用したりする



ポイント①!

切る線がはさみの刃先で隠れてしまわないよう、油性ペン等で太くする。

ポイント②!

のりをつける部分が見えるように鉛筆等で印をつけておく。

ポイント③!

のりを塗った場所が見えるよう、色のついたのりを活用する。また、弱い力でも扱える特殊なはさみや補助具を活用することも有効である。